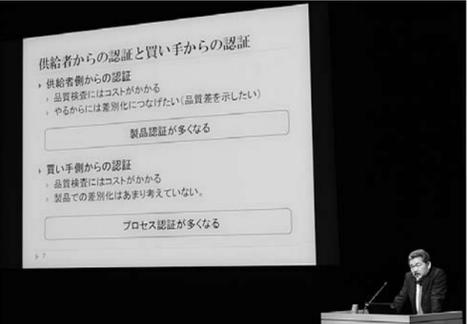


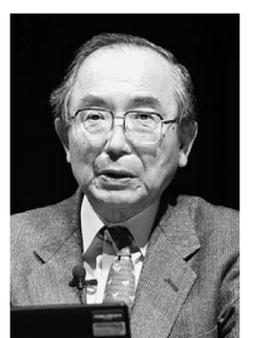
国際ビジネスを支える 国際標準と第三者適合性評価の戦略的活用

～日本適合性認定協会創立20周年を機にさらなる普及を目指して～

日本経済新聞社は11月28日、東京・大手町の日経ホールで「国際標準と第三者適合性評価の戦略的活用」と題したフォーラムを開いた。日本適合性認定協会(JAB)創立20周年を機に、企業活動がグローバル化する中、ビジネスで優位に立つための標準化活動の最新動向などを紹介した。



協賛社挨拶 第三者適合性評価の現状等



日本適合性認定協会 理事長 久米 均 氏

品質マネジメントシステムの第三者適合性評価制度は3つの機能で構成される。企業の品質マネジメントシステムがISO規格に適合しているかどうかを審査し、適合している場合はそれを登録、公表する機能。これを審査する認証機関の審査能力を認定する機能。審査員の評価、登録および研修を行う機能。 JABは20年前、民間主導で、我が国唯一の認定機関として設立された。制度の公平性、透明性を確保することや国際的整合性の確保を基本理念とし、海外に

来賓挨拶・講演 認証制度を巡る現状とその活用について



経済産業省 産業技術環境局 認証課長 和泉 章 氏

経済産業省は日本工業標準調査会事務局として、国内の専門家の皆様や団体などに協力いただき、ISOにおける国際標準化に対応している。ISOにおけるマネジメント標準もその種類が増えており、例えば、2010年には道路交通安全マネジメントISO39001が国際標準化され、最近では、労働安全衛生マ

基調講演 国際標準と第三者適合性評価の戦略的活用



東京大学大学院 経済学研究科 教授 新宅 純二郎 氏

国際標準と第三者適合性評価を戦略的にどううまく使っていくのか。2 買い手にとっても、標準化がグローバル化して、企業活動がグローバル化して、国際標準と第三者適合性評価の現状等

供給側と買い手側で 求める認証異なる

直結しないのではないかと いわれ、国際標準をリードしてきた企業の優位性を確保して、ISO規格に適合していることが問題になってきた。コスト削減と品質向上の両立が求められる。供給側と買い手側で求める認証異なる

小企業は、認証・認定をうまく活用して、ブランド力の不足を補い、グローバル展開のチャンスをつかめる。その推進のためには、日本の認証機関のグローバル化も必要だ。ドイツのTUVのような認証機関は、活動領域をグローバルに広げている。残念ながら、日本の認証機関の場合、そういう事例はまだ少ない。

特別講演 世界の潮流から見た 日本の科学技術イノベーション総合戦略



内閣府 総合科学技術会議 議員 原山 優子 氏

成長の新しい源泉をいかに求めていくか。旧来型の成長の大きな源泉に科学技術イノベーションが位置づけられている。国際標準化・知的財産戦略の強化については、今後のイノベーションの進展を見ながら戦略的に議論していく必要がある。

特別講演 制御機器・制御システム セキュリティ認証とビジネスの国際展開について



横河電機 IA-MK本部 テクノロジー-MK室マネージャー 武部 達明 氏

いろいろなものが高度にIT化され、重要インフラを支える設備そのものも高度にIT化されている。その中でITのセキュリティが懸念されている。欧米で研究調査が進み、その結果を受けて海外の顧客、市場からセキュリティに対する要求が来るようになった。弊社の売上比率を見ると、海外の売り上げの方が高くなっている。その中で、海外の顧客からセキュリティに対する要求が高くなっている。その中で、海外の顧客からセキュリティに対する要求が高くなっている。

特別講演 農業分野における世界的なGAP認証制度の広がり、日本の業界標準である「JGAP」の戦略



日本GAP協会 専務理事 武田 泰明 氏

最近、農業分野でも認証制度は非常に重要性を増しており、国内の取引だけでなく、農産物の輸出戦略の中でも大きな問題になっている。日本は、農産物の輸出戦略の中でも大きな問題になっている。日本は、農産物の輸出戦略の中でも大きな問題になっている。

業界標準策定に参加 ビジネスに生かす

スクリーンなどといった攻撃ツールが高度化し、メールや犯罪サイトを經由してパソコンに埋め込まれたマルウェアを管理する人は、システムやセキュリティに詳しい人でなく、アプリケーションの消耗に何とかならなければならない。スクリーンなどといった攻撃ツールが高度化し、メールや犯罪サイトを經由してパソコンに埋め込まれたマルウェアを管理する人は、システムやセキュリティに詳しい人でなく、アプリケーションの消耗に何とかならなければならない。

海外展開のためには JABとの協力不可欠

こうした状況を招いている。JABは、農産物の食品被害と見えれば、消費者に見せられないような場面も多い。JABは、農産物の食品被害と見えれば、消費者に見せられないような場面も多い。JABは、農産物の食品被害と見えれば、消費者に見せられないような場面も多い。